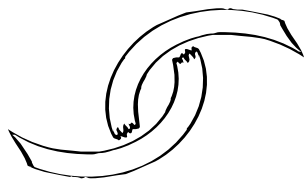


一人ひとりがそれぞれの個性や能力を活かし合い、共に生きる社会をつくるために



扉を開いて



北区男女共同参画推進ネットワーク会報 第85号 2023年3月23日

ねつとわーくの活動

2月12日(日) Zoom講座



今年度のインターネット講座として、「Zoom講座」を開催しました。
4名の会員が参加し、「知らなかった機能を知ることができて役立ちました」「団体でも使用する可能性があるため、参加できてとても有意義でした」などの声がありました。

12月1日(木)~22日(木) NWECフォーラム2022

Zoom講習会&Zoom自習会

参加費 無料

令和4年度
男女共同参画推進フォーラム
NWECフォーラム2022
~ジェンダー平等を実現しよう~

オンライン開催

男女共同参画の推進に関心のある人々が課題を共有し、共に解決策を探る研修会として令和4年度「男女共同参画推進フォーラム」(NWECフォーラム2022)を実施します。このフォーラムを契機に、地域・組織・分野を超えた交流学習が進み、連携・協働して男女共同参画を推進するネットワーク形成が強化されることを期待します。

開催期間 令和4年 12月1日(木) 9:00~22日(木) 17:00

特設サイト公開期間 令和4年12月1日(木)~22日(木)
ライブ配信プログラム配信申込、オンライン申込受付、資料ダウンロードが可能

NWECウィーク 令和4年12月1日(木)~7日(水)
運営委員プログラムのうち、ライブ配信で特設プログラムを実施します

出張団体ウィーク 令和4年12月8日(木)~22日(木)
主催者プログラムのうち、ライブ配信で特設プログラムを実施します

対象者 行政、企業、民間団体、企業、大学、学校、NPO、その他の任意団体等において、男女共同参画推進に関わる方、及び男女共同参画推進に関心のある方 **定員** 1,000名

会場提供プログラム

ライブ配信 ライブ配信及び同プログラムの見直し配信を行います。

基調講演
「見えない壁を乗り越える~ジェンダー平等時代のリーダーシップ~(仮)」
ライブ配信 12月7日(水) 10:00~12:00(予定) 見直し配信 12月15日(木)~開催期間中

日本女子サッカー界のバイオピオである岡島喜久子さんを初迎え、前半はこれまでのキャリアとその困難、「見えない壁」をどう乗り越えるか、足踏のトング、監督として見える「見た」景色や今後のビジョンについて、後半はこれからの男女共同参画/ジェンダー平等推進をテーマにしたQ&Aセッションが予定されています。

【第1部】
●講師 岡島 喜久子
WEリーグ初代チーフ

【第2部】
●進行 萩原 なつ子
独立行政法人国立教育政策研究所 理事 兼
●登壇者 公野によるU-30世代の皆さん

*配信時間、配信内容、配信料金は別途告知させていただきます。
*配信料金は別途告知させていただきます。
*配信料金は別途告知させていただきます。



また、運営委員研修として「Zoom学習会」を2回、「Zoom自習会」を不定期で数回行い、運営委員のスキルアップに努めています。

オンラインで開催された「男女共同参画推進フォーラム(NWECフォーラム2022)」に、運営委員研修として参加しました。

報告をP4~5に掲載しています。

『ねっとわーく』の成り立ち ～発足までの流れと、誕生から28年の歩み～

「ねっとわーく」の誕生から今日まで、周年の時でもなければ、なかなか振り返る機会もないこの28年を、地域活動の大先輩で広報のお仲間でもあるMさんとHで語り合いました。

H もう先輩方が何人も鬼籍に入られましたね。まだ、どこかで活動してください。まだ、どこかで活動してください。まだ、どこかで活動してください。

M 皆さん、見守ってくれていると思いますよ。

H 私は、大人と子どもの文化活動をしている団体の代表として、「女性リーダー会議」に呼ばれて以来の会員です。当時はたぐさんの先輩がおられて緊張しました。運営委員は、全部で30人位いましたね。

M 当時、区立中学校のPTAの女性会長は1〜2名で、その一人としてリーダー会議に参加したので、錚々たるメンバーで、ワクワクしました。

H 新しい時代の扉が開くんだ！と思いました。

M まつりも、区の職員がやっていたのを、私たちがやることになって、色々改革しました。当時、王子の女性センター（現 王子区民センター）でのお祭りや交流のためのお茶会など、みんなで知恵を寄せ合って楽しかったです。

H あと北とびあのエントランスロビーの飾りつけは楽しかったですね。大きな空き缶のロボットや、エコー広場で作ってもらった船など…。

年	北区の動き	担当部署	社会の動き
1971年	「北区婦人センター」開設		
1975年			国連 国際婦人（女性）年
1980年	「東京都北区婦人問題連絡会議」設置		
1983年	「北区基本計画」に「婦人の地位並びに福祉の向上のための目標」が盛り込まれる		
1985年	「考えてみませんか国際婦人の10年」シンポジウム開催		国際婦人の10年（1976～1985）の最終年 改正「男女雇用機会均等法」成立 日本が「女性差別撤廃条約」を批准
1989年	総務部 副主幹（女性問題担当）設置	※1	土井たか子ブームで社会党躍進
1990年	「北区婦人問題に関する意識と生活実態調査」実施		
1991年	初の女性行政専管課として「女性計画推進室」を設置 「婦人」から「女性」に表現を統一 北区女性行動計画「アゼリアプラン」策定（第1次） 第1回アゼリアプラン推進区民会議開催	推進室 総務部 女性計画	
1992年	「女性計画推進室」から「女性政策課」に組織変更 「北区婦人センター」を「北区女性センター」に名称変更	女性政策課 総務部	
1993年	「北区女性団体リーダー交流会」開催（ネットワーク化）		細川内閣が成立（1955年以降初の政権交代）
1994年	「女性団体リーダー会議」開催		日本が「子どもの権利条約」を批准
1995年	「北区女性のネットワーク」発足		阪神・淡路大震災
1996年	第2次「北区アゼリアプラン」策定		
1997年			「男女雇用機会均等法」改正
1998年	「女性政策課」を「男女共同参画室」に改称	参画室 総務部 男女共同	
1999年			「男女共同参画社会基本法」成立 「男女雇用機会均等法」改正
2001年	「北区育ち愛ほっと館」開館		「DV防止法」成立
2002年	「男女共同参画室」を「男女共同参画推進課」とし、 「子ども家庭部」へ組織改正	男女共同参画推進課 子ども家庭部	
2003年	第3次「北区アゼリアプラン」策定		
2004年	「女性センター」から「男女共同参画センター（愛称：スペースゆう）」に名称変更し、北とびあ（5・6階）に移転 「北区女性のネットワーク」から 「北区男女共同参画推進ネットワーク」に名称変更		

※1：総務部 副主幹（女性問題担当）

H 私は、男女共同参画週間を区と共同で企画運営した頃が一番充実していたと思います。映画や演劇をつつじホールでやって、超満員の人でにぎわいました。率直に意見を交わして、よいものを創り上げようとするエネルギーが溢れていました。

M その後、北とびあに移転して、調理室が無くなり不便でした。手作りパーティーが出来なくなりました。お料理自慢の方たちの腕を振るう場が無くなって。

M 6階部分を引き受けて、案内ボランティアを組織したり、ほっと館とリンクして、ミャンマーなどの服やグッズを販売したりして。今では考えられないような楽しいコーナーでした。

H その後、急に6階が指定管理となり、案内ボラは終了しました。条例づくりの時はバックラッシュを皆で乗り越えたのに、この頃から色々な面で後退が始まった気がします。

M ギャラリーも楽しみでした。写真展、キルト展、ダイナミックなお習字も…。案内に入る会員さんたちとの交流やおしゃべりが、『ねっとわーく』の情報交換や交流につながっていたのに、残念でした。

H Mさんが活躍された頃ですね。移転しても、良かったことは継承したいです。

「おわり」

年	北区の動き	担当部署	社会の動き	
2005年	「北区アゼリアプラン推進区民会議（第6期）」提言	子ども家庭部 男女共同参画推進課	「高齢者虐待防止法」成立	
2006年	「 北区男女共同参画条例 」策定 「北区男女共同参画審議会（第1期）」設置		「男女雇用機会均等法」改正	
2007年	「北区男女共同参画苦情解決委員会」設置			
2008年	「北区男女共同参画審議会（第2期）」設置 「北区男女共同参画に関する意識・意向調査」実施			
2009年	「第4次アゼリアプラン」中間のまとめ策定		「育児・介護休業法」改正 民主党「鳩山政権」発足	
2010年	第4次「北区アゼリアプラン」策定 「北区男女共同参画審議会（第3期）」設置		「第3次男女共同参画基本計画」策定	
2011年	北区パープルリボンシンボルマーク制定		東日本大震災	
2012年	「第4次北区アゼリアプラン」中間の見直し実施 「北区男女共同参画審議会（第4期）」設置		「東京都配偶者暴力対策基本計画」改定 「男女平等参画のための東京都行動計画」改定 「障害者虐待防止法」施行	
2013年	「北区男女共同参画に関する意識意向調査」実施			
2014年	「北区男女共同参画審議会（第5期）」設置			
2015年	「男女共同参画センター」6階部分を北とびあに移管 第5次「北区アゼリアプラン」策定		「第4次男女共同参画基本計画」策定 渋谷区と世田谷区で、国内初の「同性パートナーシップ制度」施行 「生活困窮者自立支援制度」施行	
2016年	「男女共同参画推進課」を北区教育委員会に移管し、 「男女いきいき推進課」に改称 「北区男女共同参画審議会（第6期）」設置		子ども未来部 北区教育委員会 男女いきいき推進課	小池百合子さんが女性初の都知事に就任
2017年	「男女共同参画センター（スペースゆう）」から「スペースゆう（男女共同参画活動拠点施設）」に名称変更			性犯罪関連の改正刑法が施行 SNSを中心に#MeToo運動が広がる
2018年	「北区男女共同参画審議会（第7期）」設置	医学部入試女性差別問題発覚		
2019年	「男女いきいき推進課」から「多様性社会推進課」となり、 区長部局の総務部に復帰	総務部 多様性社会推進課	児童虐待死事件が各地で相次ぐ	
2020年	第6次「北区アゼリアプラン」策定 「北区男女共同参画審議会（第8期）」設置		「第5次男女共同参画基本計画」策定 新型コロナウイルスが世界的に流行	
2022年	北区パートナーシップ宣誓制度施行 「北区男女共同参画審議会（第9期）」設置		ロシア、ウクライナへ侵攻 安倍元総理銃殺事件	

国立女性教育会館(NWEC)による、「男女共同参画推進フォーラム」が、昨年12月1日〜21日の間、オンラインで開催されました。その一部を「報告」します。

基調講演 「見えない壁を乗り越える〜シエンダー平等時代のリーダーシップ〜」

第1部 講師 岡嶋 喜久子 (WEリーグ初代チエア)
第2部 進行 萩原 なつ子 (独立行政法人国立女性教育会館 理事長)
登壇者 公義によるU-30世代の皆さん (佐藤蒼さん、松田悠さん)

基調講演 第1部

報告：井上ふみ子

WEリーグとは、日本初の女子プロサッカーリーグのことです。2021年に結成されました。

現在11のクラブがあり、「女子サッカー・スポーツを通じて、夢や生き方の多様性にあふれ、一人ひとりが輝く社会の実現・発展に貢献する」という理念を掲げています。その理念に基づいて、三つのビジョン(サッカー事業・社会事業・事業基盤)を持って活動しています。

サッカー事業としては、世界最高水準の選手・スタッフを輩出すること、社会事業としては、女性が起点となり、社会全体に前向きな変化を生み出す原動力になること、事業基盤は、社会面、競技面の発展を支えるリーグ基盤(財政・組織)を確固たるものとし、多種多様な働き方を内包した、社会のロールモデルとなる組織を実現すること、とあります。

WEリーグの取り組みとして、クラブ

のスタッフに女性が50%以上、意思決定する役員並びにコーチングスタッフに必ず女性1名を入れる、というクラブ参入基準があります。また、選手とクラブとパートナー企業とで、シエンダー平等の課題を共有し、課題解決のためのチーム作り、サポート体制の確立に取り組んでいるとのこと。

課題例として、「日本の女子の自己肯定感が低すぎる問題」「大人がバイアスを育てている問題」「差別を差別と気づけない問題」等が示されましたが、特に印象に残ったのは、「女性向け施策を男性メインで考えている問題」でした。

シエンダー不平等な社会にあって、男性の意識改革は当然のこと、女性も自己肯定感を高めて女性が活躍する機会を自分たちで作るという意識を持つことの重要さを、岡嶋さんご自身の経歴を伺って納得のいく内容でした。

基調講演 第2部

報告：田邊みつ子

基調講演の第2部は、岡嶋喜久子さんご公義によるU-30世代のお二人(佐藤さん、松田さん)との語り合いです。進行役は萩原なつ子さんでした。

佐藤さんは現在27歳で、サッカー歴13年。女性として生きていくのが難しいと感じ、3年前に性転換の手術を受け、今は男性として生きています。性転換をするために女子サッカーをやめなければならなくなりました。男性として生きていくようになり、シエンダーと向き合うようになったと言います。

松田さんは28歳。サッカーの指導者として5年間、女子中学生を指導してきましたが、昨年、男性指導者の中で自分が劣等感を感じてしまい、キャリアを積んで



基調講演の様子
写真(女性活躍推進セミナーを含む)は、国立女性教育会館(NWEC)公式サイトより
https://www.nwec.jp/event/training/g_forum2022.html

いくのがつらくなり辞めたと言います。佐藤さんの「ありのままの自分を出すのは恐怖です。そのような時どつすればよいか?」という質問に、岡嶋さんは「何でもいから、自分が誇れる能力を持つ。相対的な強さを持つ。そういうものが持てれば、誰に何を言われても聞き流すことができる。」と答えました。

サッカーの指導者を辞めた松田さんには、全く違う環境に入ることにより、今までのことを顧みることができるので、場を変えることを提案しました。

場を変えるということでは、佐藤さんが性を変える決断をしたのも、アメリカで生活していた時だったと言います。

自己肯定感が下がってしまった松田さんに、女子指導者同士で横の繋がりを持て欲しい。多様な価値観を持った人たちと結びつくことが大切だと岡嶋さんはアドバイスしました。

『相対的な強さ。場を変える。結びつく。』これらは私のこれからの人生にも必要だと実感しました。私は、シエンダー問題について、身の周りの些細なことから取り組み、性差別主義、ハラスメントに反対の声を挙げ、多様性と女性の社会参加へ向けて進んでいこうと思いました。

ワークショップ

「クオータ制を実現する会」のプログラムに参加して

報告：上野やす代

完全オンライン開催に戸惑いながらも、12月16日開催の「クオータ制を実現する会」のフォーラムに参加しました。参加者は全国から8名。ルーマニア、イギリスからの参加(いずれも日本出身)もあり、オンライン配信の利点を実感しました。

始めに、司会の神永れい子さん(会代表)より、事前に配信された資料を基に趣旨の説明を次の様に受けました。

「国連の女性差別撤廃委員会よりクオータの採用を迫られ、日本政府は2020年には、あらゆる指導的地位に女性が30%いるようにすると答弁」し、「2018年には政治分野における男女共同参画の推進に関する法律を衆参とも全会一致で可決成立したが、現状は世界の国々に追い抜かれ、日本の女性国会議員比率9.7%は193カ国中168位! 政治分野は最下位グループ」ちなみに50%以上はルワンダ、キューバ等5カ国」という状況にあります。また、2019年道府県議選では、6道府県で女性が減少。女性の一桁議会は40道府県あり、39%の道府県で無投票当選議員がいる。選挙ナシで議員が決められるのは、主権者が選挙機会を奪われていること、「民主主義の大危機」だと言います。

そして提案として、「選挙に出るために『職を辞する必要のない選挙休職制度』の取り入れや『高い供託金の廃止や減額』が必要」「日本版クオータ制を含む公職選挙制度改革案」等々ありました。

参加者からも「日本は人権教育、主権教育が不足」「一票制は?」「名前を書く投票に負担もある」等々が出され、私も、日本の選挙制度についても一度勉強を!の刺激を受けました。

女性活躍推進セミナー

報告：広報部

1. 初めに東京大学における男女共同参画・ダイバーシティ推進の現在と未来について、小川真理子さんから報告。187年創立の東京大学が女子を初めて受け入れたのは九州大学より遅い1946年。女性研究者の比率は日本は17%で世界最下位。外国人教員比率もケンブリッジ51.7%、カリフォルニア39%のところ、東大は6.6%という低さである。そこで、多様性と包摂性を進めるべく対話から創造へと取り組み始めた。



シエンダージャスティス啓発として、ダイバーシティ&インクルージョン(D&I)を目標にアンコンシヤスバイアス講演会などを行い、多様な学生が安心感と帰属感を持ちつつ学び場としてのピアコミュニティ作りに取り組んでいる様子が語られた。

2. 萩原なつ子さん(NWEC理事長)のコーディネートによるパネルディスカッション。シオノギ、横関油脂工業(株)、アースクリエイト、東京大学の4者がよりよい社会・未来を目指して取り組むD&Iの内容と成果が発表された。研修等を通して、過去に捉われない平等で自立的に働く会社創りが進んでいる事例紹介。「女性の社会進出をサポートする制度が整っている」と、高校生から評価を受ける会社もあった。各企業の取組から学ぶことは多く、改めて報告したいくらいの内容。

全く違う能力、違う考えの人が集うことが刺激になり、実は生産性が高まるのだということを、各社各様に話された。新たな時代へのヒントと希望が満載のセミナーだった。

私たちグリーンリンク生活学校は、12月14日(水)、北とびあにて、北区新生活運動合同対話集会を行いました。

「食品ロスを減らす」が今年度の活動テーマで、「都市を耕す〜エディブルシティ」(2014年製作)を上映し、その後にグループに分かれ意見交換。コメンテーターに、法政大学人間環境学部教授の小島聡さんをお迎えしました。

映画は、「畑で街を占拠しよう!」のスローガンを掲げ、経済格差の広がるアメリカの都市の社会状況を背景に、市民自ら安全で健康な食を手に入れるシステムを取り戻す活動を行っていくというもの。住民たちが、コンクリートをはがして、街の隙間で野菜を栽培し始めるようすから始まるこの映画。それがなぜ食品ロス削減につながるかといえは、本来、食と農は切り離せないもので、農を知らば食べ物の大切さがわかり、生ごみを土に還すことは、また野菜の肥料になるという循環の見える化や、食を中心に人がコミュニティで共生していくことの大切さも描かれているからです。

北区もエディブルシティになって欲しい。たくさんの方が暮らし育つ都市こそ「農的空間」は必要。そう考えるからです。当日は、映画のタイトルに導かれ同じ思いの人が集まり、つながりました。

小島さんからは、「食と農は街を変える可能性がある。なぜなら食は人に必ず必要で、農地には多面的な機能があり、先進国で都市農は見直されている。都市農業振興基本法が施行されている。自治体は「都市農業振興基本計画」をつくることができる。農業といっても業の計画としなくてもいい。「都市農シズンファーマーズ基本計画」や「都市を耕すビジョン」を農のないところに行きたら凄い!30年後50年後どうなっているのかを夢に描きましょう。都市だからとあきらめずに。若い人は未来に夢を描くことに巻き込むとよい。「空き地などを探検してみる、非公式の学習会を、行政を巻き込んで行う」などの助言をいただきました。少しずつ実行できたらと思います。

おすすめ映画

我妻澄江

「こころの通訳者たち」

2021年製作・90分

田端にある、日本で唯一のユニバーサルシアター『CINEMA Chupki TABATA (シネマ・チュプキ・タバタ)』で、この作品を観た。ここで上映する全ての作品には聴覚障害者用の字幕がついていて、座席に搭載されたイヤホンで場面解説の音声ガイド(視覚障害者用)を聴くことができ、白杖の方や盲導犬連れの方が隣に座ったりする。

作品は、演劇の舞台に立つ「舞台手話通訳者」3人を追った記録映画で、その手話にも音声ガイドを付けるという「前代未聞の試み」を追ったドキュメンタリー。コロナ禍のなか、聴覚障害者向けの手話を視覚障害者にどう伝えるかで、プロデューサーの平塚さんが視覚障害者、聴覚障害者、その手話通訳もまじえて、対面やリモートで何度も話し合いをしていく。

決して諦めずに目標を達成する姿に感銘を受けた。また、実際に「音声ガイド」を録音する光

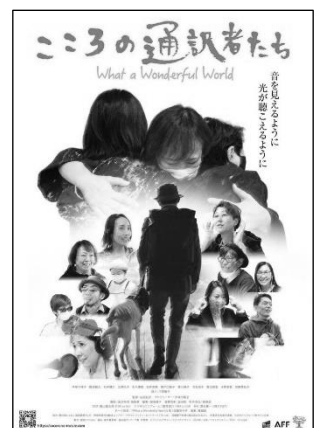
景がとても新鮮だった。

上映後は、平塚さんの熱い思いがいっぱい詰まったトーク。話したことが振り仮名つきでスクリーンに映し出されて、視覚障害の方にも伝わっていた。

◎監督：山田礼於

プロデューサー：平塚千穂子(シネマ・チュプキ・タバタ代表)

※舞台手話通訳：舞台作品の進行に合わせて、手話で台詞や情景を伝える同時通訳のこと。通常の手話通訳とは異なり、演出家の指導のもと、通訳者も1人の出演者として役者と同じ衣装を着て、舞台に立つ。



都道府県版ジェンダー・ギャップ指数

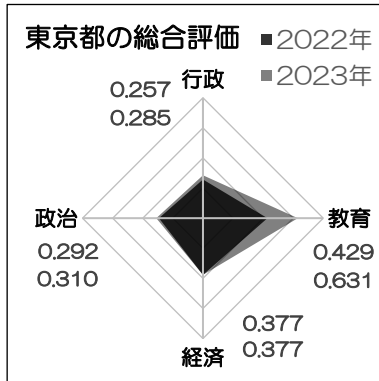
東京都の詳細（2022年版）

政治	
歴代知事の在籍年数の男女比	0.072
衆参両院選挙区選出議員の男女比	0.276
市区町村議会の男女比	0.415
市区町村長の男女比	0.069
女性ゼロ議会 ※1	0.935
都道府県議会の男女比	0.477
行政	
市区町村の管理職の男女比	0.210
市区町村の審議会の男女比 (防災会議を除く)	0.438
市区町村防災会議の男女比	0.153
都道府県職員の育休取得率における男女格差	0.086
都道府県の管理職の男女比 (教育委員会事務局を除く)	0.203
都道府県の審議会の男女比 (防災会議を除く)	0.573
都道府県庁採用に占める男女比 (大卒程度)	0.703
地方自治法180条の5の委員会に占める男女比 ※2	0.149
都道府県防災会議の男女比	0.121
教育	
小学校の校長の男女比	0.330
小中高校の副校長・教頭の男女比	0.349
中学・高校の校長の男女比	0.105
四年制大学進学率の男女格差	0.992
都道府県教育委員会事務局の管理職における男女比	0.667
都道府県教育委員会事務局の管理職における男女比	0.307
経済	
フルタイムの仕事に従事する割合の男女比	0.701
フルタイムの仕事に従事する男女間の賃金格差	0.738
共働き家庭の家事・育児等に使用する時間の男女格差 ※3	0.187
社長数の男女比	0.198
企業や法人の役員・管理職の男女比	0.215
農協役員の男女比	0.121
フルタイム以外の仕事に従事する男女間の賃金格差	0.825

※1 「女性ゼロ議会の数」は、一つもないことを「1」とし、数が多いほど0に近づく

※2 都道府県の選挙管理委員会など、教育委員会を除く

※3 家事・育児・介護・看護・買い物に使用する時間



現在、共同通信社のサイトで、2022年版と2023年版が閲覧できる。2023年版は有料となっているので、まだ見ていないなら、2022年版だけでも見てみることをお勧めする。

「政治」の4分野だが、「健康」の代わりに「行政」を据えるなど、日本の実状を考えてカスタマイズされている。現在、共同通信社のサイトで、2022年版と2023年版が閲覧できる。2023年版は有料となっているので、まだ見ていないなら、2022年版だけでも見てみることをお勧めする。

元となるデータは、官公庁などが公表しているオープンデータを使っている。計算に用いられた指標は、三浦教授らが独自に選り出したもので、本家のGGIとはカテゴリーなども異なっている。例えば、GGIでは「経済」「教育」「健康」「政治」の4分野だが、「健康」の代わりに「行政」を据えるなど、日本の実状を考えてカスタマイズされている。

昨年(2022年)の3月8日、国際女性デーに合わせて、2022年版の「都道府県版ジェンダー・ギャップ指数」の試算が公表された。上智大の三浦まり教授らでつくる「地域からジェンダー平等研究会」が、世界経済フォーラムが毎年公表している世界の男女間格差を測るジェンダー・ギャップ指数(GGI)の手法を用いて導き出したものである。

分野別の上位10都道府県

行政			政治		
順位	都道府県	ジェンダー・ギャップ指数	順位	都道府県	ジェンダー・ギャップ指数
1	鳥取県	0.395	1	東京都	0.292
2	徳島県	0.311	2	神奈川県	0.226
3	滋賀県	0.281	3	新潟県	0.220
4	島根県	0.273	4	千葉県	0.211
5	岐阜県	0.272	5	京都府	0.211
6	佐賀県	0.272	6	大阪府	0.207
7	福井県	0.266	7	栃木県	0.206
8	岡山県	0.262	8	兵庫県	0.205
9	京都府	0.261	9	滋賀県	0.195
10	福岡県	0.258	10	埼玉県	0.194

経済			教育		
順位	都道府県	ジェンダー・ギャップ指数	順位	都道府県	ジェンダー・ギャップ指数
1	沖縄県	0.384	1	広島県	0.503
2	東京都	0.377	2	神奈川県	0.495
3	岩手県	0.375	3	石川県	0.470
4	高知県	0.375	4	高知県	0.461
5	秋田県	0.370	5	岡山県	0.443
6	宮崎県	0.367	6	東京都	0.429
7	山口県	0.367	7	岐阜県	0.427
8	山形県	0.364	8	福岡県	0.423
9	徳島県	0.363	9	富山県	0.422
10	島根県	0.362	10	鳥取県	0.420

都道府県版ジェンダーギャップ指数

2022年版 <https://digital.kyodonews.jp/gender2022/>

2023年版(有料) <https://digital.kyodonews.jp/gender2023/>

インフォメーション

第29回定期総会のご案内

『ねっとわーく』定期総会の日程は下記の通りです。

●第29回 定期総会

2023年5月20日（土）

午前10時～

北とびあ6階 ドームホール

今回は役員の変更があります。皆様からの立候補、推薦を受け付けておりますので、よろしくお願い致します。締切は4月10日です。

出欠ハガキは4月下旬発送予定です。5月9日までに返信ください。

議案書は5月上旬に発送予定です。総会にご来場の際は忘れなく。

訃報

『ねっとわーく』会員の鈴木郁子さんが、2023年1月7日に逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

鈴木さんは、2005年から2010年まで3期6年間に渡って運営委員として活躍されました。

2023ねっとわーくまつり

5月20日（土） 午後1時～4時30分

21日（日） 午前10時～午後4時30分

5階 スペースゆう（北区男女共同参画活動拠点施設）&6階

●講演&対談 **入場無料**

性教育 いつから、どのように？

～子ども・若者を大切にする社会を作るための包括的性教育～

20日（土）午後2時～4時（午後1時30分開場）

6階ドームホール

講師：染矢明日香さん（NPO法人ピルコン 理事長）

対談相手：岩崎真有美さん（『ねっとわーく』会員）

●活動紹介とステージ発表（『ねっとわーく』団体会員の紹介と発表）

21日（日）午前10時～12時 6階ドームホール

●上映会「こどもかいぎ」**チケット販売・キャッシュレス可**

21日（日） 2回上映

1回目：午後1時～2時30分（未就学児・小学生同伴可）

2回目：午後3時～4時30分（中学生以上）

※開場は各回上映開始の20分前です。

6階ドームホール

チケット：一般 1,000円

『ねっとわーく』会員 800円

子ども席 500円（中学生以上は大人料金）

●展示・体験・販売コーナー

20日（土）～21日（日）

5階スペースゆう&6階ロビー

■パネル展示 4月29日（土）～5月21日（日）

6階ドームホール壁面

*編*集*後*記*

コロナ騒ぎで制約が多かった日々とも、ようやくお別れできそうになってきました。

これで「元通り」と言いたいところですが、3年も経つと、その間の生活に馴染んでしまって、もう何が「元」なのか、わからなくなってきました。

いや、生まれてから自身の成長も衰えもあるのですから、「元通り」なんてものはないのかもしれない。（広報部長）

編集：広報部

会報「扉を開いて」第85号

発行日：2023年3月24日

発行：北区男女共同参画推進ネットワーク

代表 矢吹 静子

北区赤羽南 1-11-7-1105

TEL 03 (3902) 7831

ホームページ：<http://kitakudanjo.tokyo/>

メールアドレス：network@kitakudanjo.tokyo

印刷所：(有) 青雲堂印刷



次号は2023年7月に発行予定です。

・現在会員数 団体29、個人65名、賛助1名